子育てについて

子どもの目から……

市連合婦人会長　西森　律

県連合婦人会（岸千鶴恵会長）では、昭和五十八年度県委託事業として『子育て』についての調査を行いました。

南国市でも市内の一部の小学三年生から中学三年生までを対象に、親に対する子どもの考えを率直に書いていただきました。ご協力をいただきました学校の先生をはじめ生徒さんには、この紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

調査方法は……

親に対して

①いやなこと

②うれしいこと

③こうあってほしいこと

右の三項目について書いていただきました。書いていただいた一人一人の生徒さんの鉛筆のあとを、逐一読ませていただいて、子どもたちの親に対する厳しい見方、鋭い批判など自分たちには反省させられることばかりでした。

以下一部を紹介しますと……

《三、四年生》

（いやなこと）

- テストの点が悪かったら、地獄のえんまさんのような顔をして怒る
- 意見があれば言えというので言えば怒る
- ヒステリーを起こす
- 都合の良いときだけほめて、けんかしたとき言いたいだけ悪口を言う

（うれしいこと）

- いろいろな所へ連れて行ってくれる
- 一緒に遊んでくれる
- 一生懸命働いて育ててくれた
- 相談にのってくれる

（こうあってほしいこと）

- 酒、たばこをのみ過ぎないように
- 朝早く起きておいしいご飯を作ってほしい
- 健康で仲良く長生きしてほしい
- 子どもの前で夫婦げんかはしないで
- えこひいきをしないように

《五、六年生》

（いやなこと）

- 夜遅くまで酒を飲む
- 風呂から出ると裸のままでパンツをさがす（以上お父さんへ）
- 勉強、勉強と言い過ぎる
- おばあちゃんをいじめる
- 小言が多い（以上お母さんへ）

（うれしいこと）

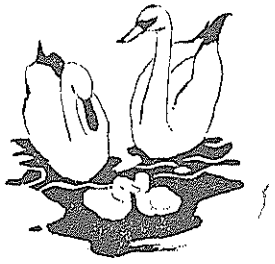
- 悪い癖を直すよう注意してくれる
- 将来のことを話してくれる
- 両親が趣味を持っている
- いつも父をほめて話してくれる、そんなお母さんが大好き

（こうあってほしいこと）

- タバコを減らして、また夜遅くまでお酒を飲まないで
- お父さんにやさしいお母さんでいてほしい
- 健康で長生きしてほしい

《中学生》

（いやなこと）



- パンツ一つになったり、ステテコで人との応対をする
- 言ったことに一貫性がない
- 友人や近所の人の悪口を言う、うわさ話をしすぎる
- 祖父とけんかをする
- 友達がくると監視をする
- 親の強制はいや

（うれしいこと）

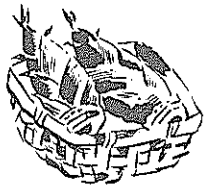
- 子どものために一生懸命働いてくれる
- 友達のように話し相手になってくれる
- いろいろなことを教えてくれる

（こうあってほしいこと）

- 子どもを理解してほしい
- 近代的で信頼ができ、人に自慢のできる親であってほしい
- どんなに子どもが無理を言っても、いけないことはいけない、良いことは良いと言える親になってほしい
- 親の人生じゃないことを分ってほしい

以上二千人あまり（県下）の生徒さんの声の一部を、学年別に取り上げてみましたが、学年が進むにしたがって親を見る目の厳しさが出ています。

あるお子さんは「離婚しないで、いつまでも私のお父さん、お母さんでいてほしい」と切望し、またあるお子さんは「お母さんが私を産む時、無理をして身体障害者になりました。一日も早くリハビリをして、健康なお母さんになってほしい」と書いてありました。

こうした母と子の強いきずなを思いますときに、父たるもの、母たるものはもう一度、子育ての原点は何かを考え、真剣に生きてゆかなければならないと思います。

この調査の報告が、ただ今子育てをなさっているお父さん、お母さんのご参考の一助になれば幸いです。